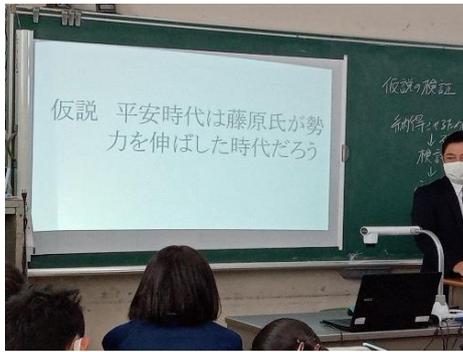


GIGAスクール構想の推進に伴う一人一台端末の整備により、義務教育段階の学び方が変わってきました。この通信は、市町村立学校の新たな学びの姿を学校や先生方にレポートすることで、ICT教育をより一層推進することを目的としています。Vol.1は第48回全日本教育工学研究協議会全国大会が開催された春日井市から、高森台中学校の様子をお届けします。



全ての授業でプロジェクタ & 実物投影機を活用

高森台中学校の取組



高森台中学校では、目指す生徒像を「自分のよさを認識し、他者を尊重し、協働しながら、自ら学び続けることができる生徒」として、日常の教育活動に取り組み、学びの質を高める道具として一人一台端末を活用して、授業の工夫・改善を重ねています。



授業の様子

全9クラスで授業公開されておりましたが、1年生の社会の授業を中心に参観させていただきました。

〈授業の流れ〉… 生徒の活動

- ① クラブルームに掲載された情報から、目当てや課題を共有し、何にどれくらい時間やエネルギーをかけるか見通しを立てる。
- ② クラウド上で共有している互いのスライドを参照したり、スクリーンに提示されたスライドを参考にしたりして、各自スライドを作成する。
- ③ スプレッドシートに集約された意見を参考に議論をする相手を決め、議論を行う。
- ④ 最後に振り返りをドキュメントにまとめる。

□枠内 … Google のアプリ

一斉、個別、協働と学びの場面が効果的に設定され、個別最適な学びにつながっていました。

戸惑う様子もなく、生き生きとした表情で自ら端末を持って移動し、友達と相談する姿や、自ら選択したアプリをスムーズに使いこなし、まとめを入力して作成する様子から、日常的に一人一台端末を活用していることが伝わりました。

全ての授業で「課題の設定」「情報収集」「情報の整理・分析」「まとめ・表現」の時間を意識し、学校全体で取り組んでいました。

また、即時に情報を共有できる一人一台端末のよさを最大限活かすことで、生徒一人一人がしっかりと授業に参加しており、「自ら学ぶ」生徒の育成につながっていることが分かりました。



協働で学習する様子



個別に目を配り対応する様子



ジャムボードでまとめる様子



ドキュメントで振り返りをする様子

その他の活動について



「生涯にわたって学び続けられる」子供たちを育てるため、「自分で問題を発見し、解決できる力」＝「問題発見・解決能力」の育成を目指して活動しています。授業を始め、生徒会主導で校則を見直す「ルールメイキングプロジェクト」の委員会活動など学校生活の様々な場面で一人一台端末やクラウド環境を効果的に活用して、「問題発見・解決能力」を育てています。

活用されている端末やアプリについて

○ Chromebook (クロームブック) について

クロームブックは、持ち運びやカバンの中に入れることを前提に考えられており、とても丈夫に作られている。これまでのようにPC内にデータなどを保存するのではなく、クラウド上の様々なサービスを利用することや、クラウド上でデータを管理することができる。



○ クラスルーム

各教科の授業や委員会活動など、目的に応じたクラスを作成し、教材や資料を共有することや課題の受け取りや提出をすることができる。また、クラスルーム内のメンバーに連絡事項を伝えたり、チャットしたりと、1か所でいろいろなことを行うことができ、学習の起点となるツール。



○ ジャムボード

インターネット上のホワイトボード。図や付箋の貼り付けが可能で、思いついたことを記入して貼り付け、後で整理するときなどに使用。同時に複数人で編集することができるので、グループ内で意見を共有することや一緒に意見を整理することもできる。



○ スプレッドシート

データの整理やグラフの作成に有効なツール。同時に複数人で編集することができるので、情報を共有する場面で有効に活用できる。クラス全員の意見を共有するときなどに使用。



○ スライド

プレゼンテーションを作成するツール。発表用のスライドを作成するときなどに使用。同時に複数人で編集することができるので、グループ内で作業を分担することや共同編集することもできる。

※ 第48回全日本教育工学研究協議会全国大会 春日井市立高森台中学校の配布資料より

資料紹介

春日井市立高森台中学校の配布資料の二次元コード



春日井市公開校6校で作成した資料の二次元コード



～・～ 春日井市立高森台中学校校長 水谷 年孝 先生のことば ～・～

ICTの便利さを教職員が十分体験しないと授業での活用は進まないとの考えから、〈略〉
まずは日常の校務でのICT活用を市内職員全員で取り組むことからスタートしました。先行事例はほとんどなく、スモールステップでのチャレンジの連続でしたが、ICT活用の便利さが徐々に浸透していきました。このように便利さを実感したことが、その後の実物投影機の活用による日常授業の改善に始まり、現在のGIGAスクール環境の活用に至るまでのICT活用推進の基礎になっています。〈略〉

結果的にいい結果が得られたことは続け、そうでなかったことはどんどん改善していくサイクルができ、教員研修の体制も改善されました。もちろんこのサイクルは、GIGAスクール環境の活用でも活かされています。新たな環境の活用にどんどんチャレンジすることが、授業づくりに結果的につながっています。

※ 第48回全日本教育工学研究協議会全国大会 大会実行委員長 ご挨拶より抜粋

「あいちICT教育通信」でICT教育の推進（教育活動の紹介等）に協力していただける学校及び市町村教育委員会を随時募集しております。お問合せメールアドレス giga_school@pref.aichi.lg.jp